

★ 特別企画：ウェルビーイングな空間を目指して★

音環境からwell-beingを叶える

株式会社 ビベル
山口 風花

1. はじめに

well-being(ウェルビーイング)とは身体的、精神的、社会的なあらゆる面からの包括的な幸せを表す言葉であり、世界的パンデミックが起きたことにより、あらゆる場所においてwell-beingを求める考え方がさらに強まっている。リモートワークの普及に伴いお家時間が増えたことにより人々は家での快適性に関心を持ち、オフィスの存在意義が問われ会議や仕事の仕方が大きく変わるなど、人々の生活や仕事に対する見直しが行われている。では「快適性」を上げるにはどうしたら良いか。私たちは「音」に注目した。音は目に見えないが意識しなくても絶えず耳にはいつてくるため、想像以上に身体や心への影響が大きい。コミュニケーションツールの手段の一つとして「音」を使った会話は私たちが仕事や生活をしていく中で必要不可欠なものである。重要な内容を話す会議、友人とのリラックスした楽しい会話や家族とのなげない会話など、私たちは日々「音」を使って情報や感情のやりとりをしている。ところが残響が大きく音がわんわん響く空間ではどこか心落ち着かず、相手の話し声も聞き取りにくくコミュニケーションがスムーズに行えない。さらに音環境は味覚にも影響することが研究により分かっているという。最近のオフィスやレストランなどの内装はガラスや石、コンクリートなど音を反響させる素材が多く使われている。そのため、竣工後に声が響いて不快で仕方がないので何とかしたいなどといった話もよく耳にする。新しい生活や仕事のスタイルがアップデートされている今こそ、私たちの音環境もアップデートする時である。

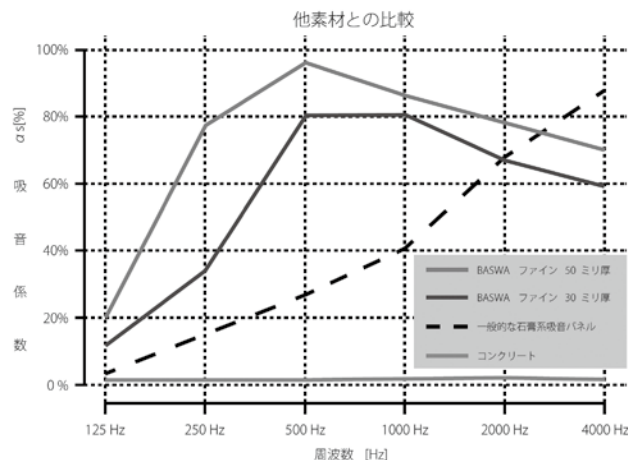
とても感覚的な事なので吸音された空間の快適性を言葉で伝えることは非常に難しいが、体験してもらうとその差は明らかだと皆さん口をそろえる。ヨーロッパでは音環境に対する意識が非常に高く、吸音の必要性を理解している人も多い。しかし日本ではまだ吸音するという感覚が少なく、知らず知らずのうちに音によるストレスを受けてしまっているケースも少なくない。

2. 高い機能と美しい見た目を兼ね備えた吸音プラスター

スイス生まれのハイクオリティ吸音プラスター「BASWAphon・バスワフォン」は高密度(80キロ)グラスウールを基材としたパネルに天然大理石砂骨材入りの仕上げコートを鍍で塗って



▲ BASWAphon・バスワフォン



▲吸音性能 (他材料との比較)

仕上げる吸音天井システムである。その吸音性能は一般的な吸音板やコンクリートとは比べ物にならないくらい優れている。

グラフから人の話し声の音域250~1000Hzで高い吸音性能がある事が分かる。また、平均吸音値を示すN.R.C.(Noise Reduction Coefficient)は石膏ボードのN.R.C.が0.80、一般的な岩綿吸音板0.46~0.64であるのに対し、バスワフォン(クラシックベース40)では0.95であり、非常に高い吸音性能があることが分かる。※吸音率100%の場合、N.R.C値は1.00となる。数値が1.00に近いほど吸音性能が高いことを示す。

バスワフォンはグラスウール、ビーズ層、塗材の3層で吸音材を複合的に使用することで、低音から高音まで幅広い音域で高い吸音効果を発揮する。また、そのシームレスで美しい仕上げも魅力であり、国内外の名だたる建築家や音響設計事務所から支持を受けている。

仕上げの仕様は3種類あり、塗材に使用される骨材粒度の違いからその質感を選べる。また色調合や曲面への施工